巻頭言

研究会活動をより一層活性化するために

新　井　克　彦†

学会運動の3本柱の一つである研究会活動の現状とより一層の活性化を促進するための私見を述べたい．

本学会の60年度の研究会活動は，17研究会，開催84回，発表506件，登録数7,857名の規模であった．他に研究会主催のシンポジウム8回（講習会1回含む，参加者1,093名）が開催された．61年度は，情報学基礎研究会を加え18研究会，開催89回，発表526件，登録数8,000名以上の規模で活動する計画である．

学会規定によれば，研究会は特定の分野に関して会員による研究発表を行い会員相互の研鑽に資することを目的としている．この目的に照らして現在の活動が十分活性化しているか検討が必要である．以下，より活性化するための思いつきを若干あげてみる．

第1に，研究発表について考える．研究会発表は，全国大会発表と論文誌発表のギャップを埋めるものと位置づけるべきであろう．発表件数をみると，全国大会の約1/4，論文誌の約3倍となっている．現状より若干増加させるのが望ましいが，全体としては概ね妥当な活動状況と評価できそうである．発表件数の増加を図る際には，十分な討論時間を確保するために開催数を増加する方向で対処すべきであろう．電子通信学会との比較において，発表件数を抜本的に増加すべしとの考え方もあるが，発表内容と討論の充実を図り，論文誌発表につながる発表の比率を増加させるなどの施策の方を重要視したい．

第2に会員相互の研鑽の観点から考えてみる．研究会主催のシンポジウムをみる限りでは，参加者が多いゆえか，発表に対し簡単な質議が行われる程度で，概して討論は低調である．研究会も同様であるとすれば問題であろう．研究会では，その性格上，生煮えの状況のものでも，研究の中間結果や研究方向等を提示し同じ分野の専門家同志の自由な討論を通じて，研究の完成度を高める手掛りにしたり，研究方向の示唆を得るなどに活用されるのが本来の姿であろう．このような活動を測る指標があれば，活性化の対策も具体化するであろう．論文化率とか，内容に関する問題提起の数などが頭に浮ぶが余り適当でない．どなたか適切な指標としてアイデアがあればご教示いただきたいものである．ともあれこの点については，各研究会の事情に応じて，主査，幹事の方々に智恵を出していただくしか手がないであろう．

第3に，研究会の地方開催回数の増加を図ってはどうか．現状，全開催数の1/3が地方開催であり，会員数の分布からみると適切とみることもできるが，活動の全国的展開を図るには有効な施策となる可能性がある．その場合，各支部の活動と連携をとることによって，支部活動の活発化の一助ともなろう．

第4に，他学会の類似研究会との共催が考えられる．最近当学会の研究会と類似の分野の活動も活発であり，これらとの共催を図ることにより，研究の質，量共に拡大し，当学会研究会メンバにも刺戟となることも多くなるであろう．

以上，私見を思いつくまま述べてみたが，理事会としても60年度に調査研究活動促進策検討委員会を設け具体策を検討した．そのうち，アクティブな学生会員に参加し易くするため参加費を値下げ，研究会（シンポジウムを含む）発表の中から優秀な発表を表彰するなどの施策が承認された．会員各位はこれらの趣旨を理解され，積極的なチャレンジを期待したい．

とまれ，現在の研究会活動が前述の規模にまで拡大したのは，各研究会の主査，幹事の方々の多大な努力の賜物と心から感謝する次第であります．本年度から各研究会の自主性の拡大を図る予定なので各研究会においてはより活発な活動を展開し，会員または登録者に真に役立つ研究会にしていただくようお願いすると共に，担当理事として微力ながら支援したいと考えている．

（昭和61年5月20日）

† 本会理事　NTT 情報通信処理研究所